

令和4年度 第1回 都島区区政会議教育・子育て部会 会議録

1 日時 令和4年9月16日（金）午後7時～午後8時20分

2 場所 都島区役所 3階会議室

3 出席者

（区政会議委員）

池田委員・伊藤委員・江川委員・谷委員・中山委員・彦坂委員・鷹取委員

（都島区役所）

大畑区長・土居副区長・清原こども教育担当課長・坂下健康推進担当課長・吉田保健福祉課こども教育担当課長代理

4 議題

子どもの居場所づくり

5 会議次第

(1) 開会（大畑区長挨拶）

(2) 議事

【吉田課長代理】

本日はお忙しい中、委員の皆様におかれましてはご出席を賜り、誠にありがとうございます。

これより令和4年度都島区区政会議第1回教育・子育て部会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます保健福祉課こども教育担当課長代理の吉田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、初めに区長の大畑からご挨拶させていただきます。

【大畑区長】

どうも皆さん、改めましてこんばんは。区長の大畑でございます。

平素は、本当に市政、区政全般にわたりましてご理解、ご協力賜りまして、誠にありがとうございます。また、本日は教育・子育て部会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

今、大阪市のコロナの現状なんですが、1日の新規感染者が2,000人程度までに収まってきまして、大阪府の警戒シグナルも14日に赤から黄色に変わり、少しずつ回復のきざしが見えてきたかなという

ところです。来週の24日にはいよいよ3年ぶりに区民まつりが開催されますので、ぜひ、感染対策を徹底しながら、区民の皆様楽しんでいただけたらなと思っております。

さて、子どもを取り巻く環境ですが、大阪市では9月6日に年1回の子どもの貧困対策推進本部会議が開催されました。数えて16回目でしょうか。16年前からやっている会議なんですけど、ここ数年の傾向では、子どもの自己肯定感の向上や、生活保護世帯の進学率や就職率が改善してきており、好転している数値も多数出てきています。一方、好転が見られない数値の代表が不登校です。不登校は、小学校では平成29年は全体の0.7%だったんですが、令和3年には1.2%であり、それから中学校では平成29年5.1%が、令和3年には6.5%と、不登校は年々増加傾向にあります。今日の部会のテーマであります子どもの居場所づくりは、この不登校対策とも密接に関係があると思っております。

ちなみに、大阪市の居場所の子どもの利用状況ですが、例えば収入の低い世帯では、「利用したことがある」あるいは「利用したことはないが、あれば利用したい」と回答している子どもの割合は、約50%の半数にも上っておりまして、居場所づくりの重要性というのはますます高まってきております。

本日は、この居場所づくりのご議論をしていただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私から以上です。

【吉田課長代理】

ここで、委員の皆様にご挨拶させていただきます。

議事録等の作成のため、事務局で本日の会議の様子を録音、写真撮影させていただいております。また、本日の会議はインターネット配信を行っております。

以上、ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、定足数の確認をさせていただきます。

本日の会議には、委員定数9名のうち6名が出席されていますので、定足数を満たしておりますことをご報告させていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

皆様には、本日の資料といたしまして、A4縦1枚の次第、同じくA4縦1枚の座席表を机の上に配付しております。A3横1枚の資料1、A4縦1枚の参考につきましては、事前にお送りしたものと同一内容でございます。

以上が本日の資料でございますが、お手元にそろっておられますでしょうか。お持ちでない方はお配りいたしますので、挙手をお願いいたします。ありがとうございます。

それでは、本日ご出席の委員の皆様をご紹介します。

中野まちづくり協議会、中山奈美様。

友渕地域活動協議会、池田聖志様。

淀川地域活動協議会、谷清美様。

議長で一般公募の江川和宏様。

副議長の東都島まちづくり協議会、伊藤佐苗様。

今来られました、大東まちづくり協議会、彦坂渉様。

無作為抽出公募の鷹取洋子様。

なお、平野委員、前田委員につきましては、本日もご欠席されております。

また、都島区選挙区選出の大阪府議会、大阪市会の各議員については、本日もご欠席されております。

それでは、これより議事進行につきましては江川議長にお願いいたします。

【江川議長】

皆さん、こんばんは。議長の江川です。今日もよろしく申し上げます。

それでは、議題に入っていきたいと思いますので、事務局から議題の説明をよろしく申し上げます。

【清原課長】

こども教育担当課長の清原です。着座にて説明させていただきます。よろしく申し上げます。

それでは、資料のうちA3横の資料をお開けください。

子どもの居場所づくりを議論していただくに当たりまして、まず都島区の現状がどうなっているのかという説明をさせていただきたいと思っております。

資料の左側、都島区役所都島区小学生サポート事業、四角で全小学校区とありますが、こちらは去年までも議論していたしゅくだいテラスの後継事業に当たるんですけども、学習習慣を子どもたちにつけてもらうことを主な目的に、またあわせて家庭や学校で吐き出せない何か心のわだかまりを吐き出してもらう場所として、各小学校区でおおむね週1回、事業者の方に委託して、勉強なり、あるいはちょっとした遊びなんかをする場を設けている事業になります。

先ほど言い漏れましたけれども、居場所づくりとは特に何か定義があるわけではないのですけれども、一般的に世間では学習支援、それからいわゆる子ども食堂、それからフリースクール形式で日中何か過ごす場を提供するような取組など、こういったものが行われているところです。後から説明するように、都島区内におきましてはまだ学習支援の部分が手薄なので、今、公費をもって実施しているところですが、これもできましたら地域のほうに移していければなというような希望を持っているところでございます。

紙面の中央から右側には地域の団体等によって行われる支援活動が紹介されています。濃い色で示された箇所がそれぞれ団体が活動されているエリアということで、実際にはもっと遠くから来ておられる場合もあるんですけども、中心となるエリアとしてこのような分布状況になっているというところ

ころです。画面中央上側、子ども食堂あいカフェは友渚地域で、その下、反時計回りに都島地域の都島こどもカレー食堂、そして中野地域の移動式フリースクールところとなっていますけれども、今実際には友渚で活動されているそうです。それから、中野地域でいっしょにごはん会、京橋こどもカレー食堂が東都島地域で、その上、内代地域はパントリー形式、食料をお配りするような形で開催されていますので、厳密には居場所とは少し異なるかもしれませんが、地域の方を支援する活動として紹介させていただきます子ども食堂スマイルキッチン。そして、ine子どもの居場所&食堂ということで、最近大東地域で開催され始めました。こういった団体が各地域で活動されているわけなんですけれども、役所の勝手な区割りといいますか希望としては、お子さん方はやっぱり小学校区単位で生活圏を持たれるようなことが多くありますので、基本的には各小学校区でそういった活動がそれぞれ行われることが理想かなというふうに漠然と思っているところです。

それから、参考として、後ろにA4、1枚、子どもとその家庭を支える都島区役所の取組とあるんですけども、いろいろお困りの家庭につきましては、我々も一生懸命サービスを提供したり相談に乗ったりさせていただいているところです。ただ、区役所はやっぱり敷居が高いでありますとか、手続がなかなか大変であるということで、必ずしもうまくつながらないようなご家庭も多いかというふうに思っております。こういったご家庭が、先ほど出てきた子ども食堂のような活動を通じて地域の方とつながる、それをきっかけにまた次のステップとして我々役所のサービスのほうにつながるようなことがあったらいいなということもありまして、そういった地域のアンテナ役——地域のアンテナ役といえればかにもいろいろ町会であるとか民生委員とかもあるんですけども、それとはまた別のルートのつながりが持てたらいいなということで、子ども食堂、あるいは子ども食堂を含む子どもの居場所づくりがより盛んになればありがたいかなというところで今回議論いただいているところです。

事務局からは以上になります。よろしくお願いたします。

【江川議長】

ありがとうございます。

それでは、範囲が広いので、子ども食堂を増やしていくのかとか、これからもっとこういうやっているところを認知させていくとか、どんな意見でもいいので、今回、議題も一つしかないので、ちょっと一回時間をかけながらやっていきたいと思えます。

Youtubeでの撮影をしているので、発言の前にお名前を言ってもらえますか。誰が言っているかわからないとよく言われますのでお願いします。

意見がないというのも意見なので、今回も中山委員から一言ずつ皆さんに意見をいただいこうと思えます。それで思うことを言ってもらえたら、そこからまた話がどんどん大きくなっていて面白いことができるかもしれないので、中山委員からよろしくお願いたします。

【中山委員】

中野まちづくり協議会の中山です。

ほうかご学習ひろばなんですけど、中野では最近5、6名来るようになってます。先日、主人が持って帰ってきた中学生のヤングケアラーのアンケートの結果をちょっと見せてもらったんですけど、ヤングケアラーの子たちは学習面がどうしても、なかなか学校ではついていけないというアンケートの結果が出ていたので、中学生もこのほうかご学習ひろばに参加できたらうれしいなと思います。やっぱり思春期で一番大事なときなので、親にも話せない、学校の先生にも話せないということが、ほうかご学習ひろばに行けたら、もしかしたら話せるようになるかもしれない、学校に行けるようになるかもしれないという思いがあるんですけど、皆さんはどう思われますか。

【江川議長】

続いて、池田委員、よろしくお願いします。

【池田委員】

友渚地域活動協議会の池田です。今の中山委員のご意見とちょっと違うんですけども、子ども食堂のことにつきまして、令和3年度の第1回のときは、食堂をやっているところが私どもの友渚地域にはなかったんですけども、今回新しくこの資料には友渚の子ども食堂あいカフェというのができています。私は参加したことないんですけども、対象を見ていると参加できる大人は大体ご父兄の方が保護者となっていますね。これは私らみたいな部外者というか、保護者以外の人間は参加することはできるんですか。申し込んだら。一遍、経験のために参加したいということで。私は年齢からふさわしいんですけども、高齢者の食事サービスとか、それからあとはスタンプラリーとか、そういう活動を支援しているんですけども、高齢者の食事サービスは参加して、やっぱり子ども食堂と同じように300円の食事代を出して頂いているんです。私も子ども食堂あいカフェについて、一遍どういうものをしているのかな、どういう雰囲気で行っているのかな、友渚が表示されているので一遍参加してみたいなと思うんですけども、これは保護者以外は難しいでしょうか。今、運動会でも何でも保護者以外は参加してはいけないことになっていますから、こういうふうな形で、今回こういう食堂も参加してはいけないのかなと感じているんですけども、いかがなんでしょうか。

【江川議長】

一応皆さんの意見を聞いて、そこから話を膨らませていくので、一回回しますけど、子ども食堂に関しては、ここに載っている京橋カレー食堂、都島カレー食堂は私が運営しているんですけど、うちはいつでも歓迎です。見に来てもらって大丈夫です。地域で子どもたちを育てるという形でやっているの。友渚のあいカフェさんがどうおっしゃるかとかはちょっと分からないんですけど。

谷委員、よろしくお願いします。

【谷委員】

こんばんは、淀川地域活動協議会の谷です。よろしくお願いします。

うちの地域は、子ども食堂も一応声はかけられたことがあるんですけども、提供する場所がないということで、何も話合いがされないまま、そのままになっています。ほうかご学習ひろばのほうは、淀川地域は人数が結構来ているとは聞いているんですが、実際には福社会館の隣の老人憩いの家をお借りしてやっているみたいなんですけれども、カーテンを閉め切っているんで、実際に中で何をされているのか。先日ちょっと用事があって伺ったときに、外から聞いていたら、きゃー、わーとか言って楽しく遊んでいるのかなというぐらいしか感じられなかったです。学習もされて遊びもしているのかなという感覚しか取れなかったんですけども、実際に見に行くにしても、子どもももう大きく、対象になる子がいないので、部外者じゃないですか。その学習ひろばに入っていったのぞくのも何かおかしいのかなと思って、外からしか教室をうかがえず、どんな様子なのかなという、音でしか判断ができないので、それを見に行ってもいいのかなというのもちょっと聞きたいなと思います。

【伊藤副議長】

伊藤です。

ちょっと確認なんですけれども、中野地区のいっしょにごはん会というのは、ここでやられていますか。というのは、私、都島区の都島本通5丁目に住んでいるんですけど、そこの近くにカツウラさんというお茶屋さんがあるんです。そこで今一緒にごはん会をされているんです。そこの方に事情を聞いたら、中野地区のところでできなくなったから、ここでしているというのを聞いたんです。カツウラさんに聞いたわけじゃないんですけど、民生委員の方が一度試食に来ませんかということでお話をいただいたので行かれたみたいなんです。今日ちょっとネットのほうでも見てみたんですけど、同じ名前になっているんですね。でも、曜日は火曜日で、本通は水曜日にされているんです。ここにもし2つあるなら、もう一個載らないといけないなと思うので、都島の人 coming のか、中野の人がわざわざ東都島まで来られているのかが分からないので、今日聞いてみようかなと思ったんですけど。ちょっと確認をお願いしたいです。

それと、子どもの居場所なんですけど、食堂と学習ひろばは東都島も少しずつ増えているように思います。参加する子どもたちが。実際、うちの東都島校区は子どもたちはすごく増えているんです。それなのに、子ども会に子どもが入っていなかったりとかそういう現状があるんです。西都島さんですか、隣の都島さんの子ども会の会長さんとこの間お話しする機会があって、そのときにお聞きしたのは、十何町会かあると思うんですけど、活動している子ども会が3つしかないそうなんです。子どもが10人ずつぐらいしかいないので、実際、西都島さんもマンションが増えて広がっているのに30人ぐらいしかいないから、連合町会長さんとお話しされて、子ども会という枠を外して、連合町会のほ

うから補助金をいただいて、どの子どもでも参加できるようにしていきたいというお話がこの間来たんです。実際、子どもの居場所というと、昔は子ども会とかが子どもの居場所だったりしたのに、それはなかったり、食堂に頼らなければいけないという現状が、すごく何か悲しいかなと思う。私のただの意見なんですけど。

以上です。

【江川議長】

ありがとうございます。

彦坂委員、お願いします。

【彦坂委員】

大東まちづくり協議会の彦坂です。よろしくお願いします。

ちょっとお聞きしたいというか確認したい部分があるんですが、まず子どもの居場所づくりの活動に関する広報の仕方なんですけれども、特に小学校との連携という形でどういうふうになされているのかなということと、あと先ほど谷委員のほうからもお話があったように、どういった活動をしているのかというのはなかなか保護者の方が分からないという話が出ていて、個人で見学に行っているのかどうかというのは分からない部分があるので、例えばみんなで見学会みたいな、何かそういうような形で活動の周知をされているのかどうかということを確認したいなと思います。

あと、子ども食堂の資料の中にあります参加対象と書かれている部分なんですけれども、この部分が各取組によって、何々区在住の小中学生とか、あと年齢だけで縛られていたりとかしているのか、このあたりの取り決めというのが、各事業、開いているところに任されているのかな、どうなのかなというのがあります。というのも、今、学校以外にいろんな習い事とかをしていて、例えば都島区に住んでいるけれども、隣の旭区の子と仲がよかったり、そういうような友達と一緒に行くことができるのかどうかというあたりを、ちょっとお聞きできたらなと思っています。よろしくお願いします。

【江川議長】

ありがとうございます。

鷹取委員、お願いします。

【鷹取委員】

内代町の鷹取と申します。よろしくお願いいたします。

先ほどいろんなお話の中で、やはり中学生の不登校とかが増えているというのは、間近に子どものいる私たち、子どもはもう今中学生じゃないんですけれども、そういうお子さんがたくさんいらっしゃるというのはすごくよく聞くことで、そこは本当に都島区だけではないですけれども、少なくなってくれたらいいなと思うところです。今本当にアプリというのが小学校でも中学校でもよく使われて

いるので、私よりも、こういうところに何があるか、こういう場所に何があるかというのを子どものほうがよく知っていると思うんです。アプリを使って。ですので、多少なりとも不登校の子どもの支援もアプリで提示していただいて、子どももすぐ分かる、現状どんな感じでやっているかというのを、時間、手間などかかるかと思うんですけれども、写真とかでいろいろ見せてもらえるようにしていたら、子どもも入りやすくなるかなと思うので、そういうものを使っていけば広がるかなと思っています。ありがとうございます。

【江川議長】

ありがとうございます。

そしたら、ちょっと質問のことが多かったので、質問のことは、事務局で答えられることは。

【清原課長】

それでは、答えられる部分、ちょっと全部答えられるかわかりませんが、まずほうかご学習ひろばに関して、中学生の広がりというご意見をいただいたかと思えます。こちらについていろいろ考えたいとは思いますが、なかなか答えるのが難しいです。実はこれまで小学生に関しては塾代助成というのがなかったので、こういう位置づけも割とやりやすかったですけれども、一方で中学生のほうは塾代助成があるので、そこはちょっと予算のつけ方としては難しい部分があるかな。ただ、塾というのはあくまで勉強を見るところであって、さっきおっしゃっていた吐き出す部分というのがありますので、確かにそういう吐き出せる場所というのは今後必要になってくるのかなとは思っています。そういう意味では、必ずしも学習にこだわらずに、居場所側の子ども食堂のようなところに通っていただくというのも一つですし、それから確かに学校という場所がどうかという話はあるんですけれども、スクールカウンセラーも一方では増強しているという状況もありますので、ちょっと吐き出す場所としてはそういうところも見てもらいながらやっていただけたらなというふうに思います。

それから、子ども食堂とかほうかご学習ひろばの見学の話が出ましたけれども、子ども食堂に関しては直接運営しているわけではないんですけど、恐らく「僕こういう者やねんけど、ちょっとのぞかせもらっていいか」とお声がけいただいたら、それは割合オープンに受け入れていただけるかなと思います。もしご心配のようでしたら、何か所か連絡を取り合っているようなところもありますので、私どものほうにご連絡いただいたら、いつ、こういう方が行くと言っているから、よろしく願いしますぐらいの中継ぎはできるかなというふうに思います。

ほうかご学習ひろばについては、池田小学校みたいな物騒な例もありますので、事業者も敏感になっている場合もあるかと思えますので、こちらのほうはお声がけいただければ、あらかじめ事業者のほうにお伝えさせてもらいたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。飛び込みで入ってくるようなお子さんもいらっしゃいますけど、基本的にやってくるのはお子さんということ

なので、大人の方が来ると、事業者もちょっとびっくりするかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、いっしょにごはん会の件です。確かにおっしゃるとおりホームページからそのまま取ってきています。実はこちらとも連絡を取って、今場所が変わったりしているのをどういう表現にしましょうという話合ひはさせてもらったんですけども、ちょっとまだ届出とかいろいろしていない関係があるので、ホームページのままにしといてくれへんかということで、今この形になっていまして、おっしゃっている移っているところがお茶屋さんのことになりますので、やっているのは2か所じゃなくて1か所です。またちょっと近々ホームページの届出、これは大阪市社会福祉協議会がやっている事業のホームページから取ってきているんですけども、そちらのほうも変えるというようなことはお聞きしています。すみません、かえって混乱させてしまったかもしれません。よろしくお願ひします。

それから、子ども会の件がありました。子ども会が確かにこういう吐き出し口であるとか、社会経験を提供する役割をずっとこの間担ってきて、そういう意味でいうと、役所が応援するのはどういう方向で応援するべきかという話はあるのかなと思います。これも役所の縦割りになるのか、福祉の立場としては、今子ども食堂という一つの活動が活発になってきているということがあるので、そちらに着目して、てこ入れを図っている。その一方で、うちでいうと市民協働であったり地域の扱いをしているところで、子ども会なりの活動をどういうふうにかバーしていくかというのは、そういう福祉的な視点も確かに必要なかなと思いますので、ちょっとまたそれは一回預らせていただいて考えさせてください。

それから、広報の仕方で、特にほうかご学習ひろばと小学校との連携ということですけども、こちらのほうは学校さんとも連携して全ての児童に案内をお配りしているような形になります。お子さんの状況に関しては、学校とも連携を取りながら進めていっていますので、ある程度情報共有というか、それは今やり取りをさせてもらっているところです。去年も広報については、外部の人間がのぞかれへんから、ホームページとかをもっと盛んにやったらどうやねんみたいな意見もいただいているんですけども、今、届くべきところにはそういうふうに学校を通じて皆さんにお配りしているので、一応ホームページは立ててはいるんですが、それほどちょっと一般の方に、言い方は悪いですけども無関係の方に知らせるまではないかなというところで、ホームページはアップしていますけれども、それ以上積極的なところはしていませんけれども、確実に参加される方、必要なご家庭には届けているという現状にありますので、ご理解いただけたらと思います。

それから、参加者の取り決めということで、ほうかご学習ひろばのほうは役所がやっているものから、どうしても小学生は校区外に出たら駄目という取り決めがありますので、一応その校区という形になります。ただ、子ども食堂さんについてはそれぞれの団体が考えてやっていらっしゃいます

し、公で何か取り決めがあるわけではありませんので、またちょっとどんな考えでおやりになっているかみたいなことはヒアリングもして、我々もご連絡を取っていきたいと思います。だからといって、エリアが違うからといって身分証を確かめるわけではないとは思いますが、多分受け入れてはいただけるんだろうなどは想像しているところです。

それから、中学校の不登校の話も、ちょっと一部重複はするんですけども、確かに中学校の不登校に関してはいろいろ問題があるので、例えばスモールステップということで、学校へ行けるんだけど教室へ入れない。そんなときには保健室登校であるとか、それから、ずっと家にひきこもりであったら、せめて週に一回どこかへ出ようというような工夫で、スモールステップをつくっていく必要があるかなというところです。区長も申しておりましたように、スモールステップの一つとしてそういった子ども食堂であるとか、それから移動式フリースクールところさんのやっているような活動があるのかなと思っておりますので、少しでもそういった活動が中学生の不登校の減少につながればというふうに思っています。

それから、アプリとか、入りやすくする工夫のご意見もいただきました。これもなかなか難しいところがあって、スティグマというんでしょうか、活動そのものにこういう活動だよと色をつけてしまうとなかなか難しいので、実は広報の仕方が非常に難しいと思っています。ただ、入りやすくする工夫ということでは、行けば楽しいんだよというイメージがつけば、いろんな人が入ってくる。いろんな人が入ってくる中に、たまたま困っている児童さん、生徒さんがいるよみたいな形になればいいかなと思いますので、ちょっとごめんなさい、そこは今はっきりした答えを持っていないんですけども、考えさせていただきたいと思います。

以上のような回答でよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

【江川議長】

一通り返答いただいてありがとうございます。

それでは議論になりそうな話を、ここからせっかくなのでしたいと思います。それが形になるかは別にして、前回の教育・子育て部会のときも同じような話で、中学生が大事な時期で、今コロナでクラブもできなくて、勉強もできなくて、学校も行けなくてで、小学校やったら6年あるところを中学校は3年で終わってしまうのを、そのまま終わってしまうことが多いので、実際できるかは分からないにしても、この会でそういう中学生の居場所づくりの話をできたらなど。子ども食堂、小学生のほうかご学習ひろばなど、今やっている居場所づくりを広めていくのは、区役所さんに写真を撮りに行ってもらって、ホームページに載せてもらったり、いろんなことでこういう活動をやっているよと、お金をかけずにでも広めることはできると思うので、何かそういう話ができれば。実際本当にそういう活動ができれば、今ほかの区でもそういうのは絶対やっているところはないので、面白い。何かそうい

った意見があればいただけたらなと思います。ここから挙手で、何かあればよろしくお願いします。

【伊藤副議長】

ちょっとこれも質問が入っているんですけど、小学校の場合、1人1台タブレットとパソコンが今支給されていて、パスワードが決まっているじゃないですか。朝、登校したときに心の天気というアプリで晴れとか曇りとかを押すようになっているので、きっと学校側はパスワードで、毎日見てらっしゃるかは分からないですけど、心の様子をちょっと酌み取れるような感じになっているんだろうなと思っているんです。中学生の場合はそういう1人パソコン1台とかタブレットがある。携帯を持っているのはきっと無理だと思うので、アプリとかと言ってはったように、そういう子どもの心情がアプリで押せるようなのかはあるんですか。それはないんですか。ちょっとそれが聞きたいです。分からなかったらいいです。私ちょっと中学校の子どもがいなくて。江川さん中学校のお子さんいますか。

【江川議長】

いますけど。

【伊藤副議長】

聞いたことないですか。ちょっと一回聞いてみてください。小学生の子どもたちは、その日ちょっと朝起きるのあれやったなと思ったら曇りとか、びっと押したり朝しているので、それから始まっているみたいなんです。中学校もそういうのを押すようなところがあれば、ちょっとこの子大丈夫かなというふうにサインが出るのが分かるんじゃないかなと思うんですけど。

【江川議長】

それは学校に行ったときに押すんですか。

【伊藤副議長】

朝来て、言ったら前の日からの様子やと思うんですけどね。ちょっとブルーやったらブルーと。朝、先生が出席を取るときに、その子が今日はちょっと眠たいですとかと出席のときに言ったりするので、まだそれを言える子はいいんですけど、言えない子はやっぱりちょっと押したら、もし返事が来るようなものがあれば、先生なりカウンセラーの方なりから、会話みたいに、LINEみたいになっていると話しやすいんじゃないかなとちょっと思ったので、言ってみました。

【清原課長】

すみません、ちょっと今情報を持ち合わせていないので、また確認したり、もし導入されていなかったら、そういうのができないか提案していったりさせていただきたいと思います。

【江川議長】

ありがとうございます。

それに続いて、オンライン授業のときは、Wi-Fiとかも貸出しているんだったら、それを例えば不登

校の子にそのままずっと貸しといて、毎日それを押してもらうとか、そんなのができたらちょっとでもつながりができるんじゃないかなと思うんですけど、それは難しいんですか。

【清原課長】

全てのケースを把握しているわけではないんですけども、いろんな形で子育て支援室に、我々の部署につながっているお子さんがいらっしゃいます。それで、様子を聞くんですけども、ちゃんと統計を取っているわけではないんですが、不登校のお子さんに関しては、Wi-Fiでつなぐこと自体を拒否しちゃっているとか、それから例えば保護者の方に教育力がないとかという場合で、お手伝いしに行きましようかとかという提案も学校側からあったりするんですけども、なかなか受け入れてもらえないという現状はあるようです。つながれる子は確かにつながれるんですけども、やっぱり一定割合、その部分ですら無理だというお子さんがいらっしゃるというのは、記録上は承知しているところです。

【大畑区長】

すみません、さっきの心の天気についてのご質問、ちょっと私から補足で、一応私も不安だったので確認しました。小学校のイメージが私も強かったんですが、中学校もたしかやっていたなと今ネットで確認したんですけど、やはり中学校もやっています。ただ、どれだけ徹底できているのか。小学校はものすごく徹底できているのは聞いているんですが、中学生の場合、どこまで心の天気というのをホームルームで朝しっかりクリックさせているのかなというのは、導入状況に関しては指導主事に確認しないといけないかなと。ただ、1人1台パソコンについては、これは大阪市だけの構想じゃなくて、ご存じのように文科省のGIGAスクール構想の中での小中学校の1人1台パソコンなので、当然、中学生も1人1台パソコンというのは提供されているはずですので、そのあたりは間違いないと思います。ちょっと心の天気の浸透状況に関しては指導主事のほうに、中学校の浸透状況の確認はまた改めてしておきます。すみません。

【清原課長】

よろしく願いいたします。

【鷹取委員】

先ほど中学校でも普及されているというところに、こういう場所が提供されていますよというのをひもづけではないですけども、心の天気とリンクできるようにしてもらえたら、子どもさんが速やかに入っていけるんじゃないかなと思います。よかったらお願いしたいなと思います。

【江川議長】

ほか何か意見などある方いらっしゃいますか。

それでは一つ言わせてもらいたいんですけど、塾代助成金があるなら、それを申請しなくても、ま

とめてこういう勉強の場所をつくるとかに充てるとか、そういうことはできないですか。塾代助成金を取っている人のほうが少ないような話を聞いたことがあるんです。収入制限とかがあってなかなか難しいという話は聞いていて、塾代助成金で、多分縦割りになっていて担当は違うかもしれないですけど、そういう場所ができたらまた変わっていくかなと。出てくるかどうかはその子次第という話かもしれないですけど、今は何もないから出てきようもないのが現状なので、そういうのがあったらいいかなと思いました。

【清原課長】

塾代助成に関しては、事業の一定目的があるので、基本的にはまず、できるだけ助成金を取って使ってくださいというところから入らざるを得ないというのが我々の立場としてはあります。その部分で、例えば子どもサポートネットとって福祉につなげる役割の職員、コンシェルジュと言ったらちょっと言い過ぎですけども、寄り添って付き添うような人間もいますので、そこはまず塾代助成金を有効活用してもらえるように、取得率というんでしょうか、頑張っていきたいと思います。余った予算をどうするかということに関しては、どれだけ余るのかとかなかなか難しいことがありますので、その予算を使うかどうかは別にして、子どもの居場所づくりをなるべく増やすような形で頑張りたいというのは抽象的なんですけれども、考えていきたいと思います。

ただ、一応つもりとしては、公のお金をどうこうするよりも、何かちょっと地域のほうから生まれてこないかなということをメインで考えていますので、またそちらのほうもよろしく願いいたします。

以上です。

【大畑区長】

すみません、何度も補足で。塾代助成は、実はまだ正式決定ではないんですが、大阪市から下りてくる認識としては、中学生に好評なので小学校5年生、6年生にも広げていきたいと。市の方向性としては拡大で我々区としては聞いているんです。ですので、今ちょっと江川議長がおっしゃったような、どれだけ果たしてちゃんと使えているのかというデータをまだ見ていないので、そのあたりも含めて考えていかないといけないかなと。

ちょっと最初の議論で、ほうかご学習ひろばを中学生にも広げたらどうなのかというご意見があって、今の議論に関連してくると思うんですが、これも実は事業者に委託するときに、やっぱり小学校の学習を見てあげると、皆さんもご存じのように中1から中3の学習を見るとなると、結構ハードルがぼーんと上がってくるんですね。中3の子の数学なんかを教えられる力というのは、やっぱり一般の方ではなかなか難しいので、そのあたりが事業者に委託の公募をかけていくときにハードルがかなり高くなってしまいうというのがあるため、このほうかご学習ひろばの対象をどうしていくべきかという

のは、次年度に向けて今考えているところではあります。ただ、中学生もあつたらいいんじゃないかという、冒頭、中山委員からお話があったように、これは検討の余地はあるなというふうに思っていますので、引き続き検討していきたいなと思っています。

すみません、補足です。以上です。

【江川議長】

ほか何でもいいので、何か意見なり考えのある方いらっしゃいますか。

谷委員、お願いします。

【谷委員】

淀川の谷です。

初めに中山委員が言っていたヤングケアラーの話なんですけど、私、淀川なんですけど、そういったものも全然聞かなくて、はっきり言って民生委員さんの担当なのかなと思うんですけども、テレビのコマーシャルでも最近そういったものをやっているじゃないですか。地域の方がその子の様子に気づいて声をかけてくださるといふコマーシャルを見て、そうだなとかと思いながらも、でも実際にはああいう子たちは口に出して言えないんだろうなというのがあって、どこからどう入ってこういう話せる場所を提供してあげられるのかなとか、こういう話せる場所をつくってあげたいなとかという考えはあるんでしょうか。

【大畑区長】

これは大阪市全体の施策なので、ちょっと私のほうでご回答させていただくと、実はヤングケアラーに対しては大阪市も副市長が3人いるんですが、その中の山本副市長を筆頭に会議メンバーを組んでいまして、私もそのメンバーに入らせていただいて、ヤングケアラーの対策会議をさせていただいています。それがものすごい大がかりな会議で、学識経験者も全部入れて、今そのヤングケアラーの調査を全部して、どれぐらい大阪市にいるのか、あるいはどんな対策ができていくのかということで、今調査が終わって、まさにこれから対策を一つ一つやっていくところが現状です。ただ、もう既に、後で吉田代理から少しお話ししていただいたほうがいいかなと思うんですが、いわゆる子サポとか、いわゆる要対協とか、我々が相談でつかんでいるヤングケアラーだと思われる子も、既に区役所でつかんでいる子も何人かいますので、その子たちには一人一人の状況に合わせたケアというのを、もちろん学校と連携して、今対策を取っているところです。その詳細を、もしよかったら吉田代理に少しお話ししていただいたらいいかなと。

【吉田課長代理】

ヤングケアラーについてなんですけれども、実際にヤングケアラーじゃないですかという相談が子育て支援室のほうに入ってくるということは、まず今のところあまりないんです。それでは、どう

やってそれが今分かっているかということ、やっぱり学校さんなんです。子どもさんが、ちょっと不登校がちであるとか、遅刻しがちであるとかということで、子どもサポートネットという事業があるんですけども、各学校を担当している推進員とかスクールソーシャルワーカーに会議の場で、このお子さんがちょっと遅刻がちなので気になりますということで上がってきてとか、あと、もう完全に不登校で全然学校に行けていないお子さんとかということで、要保護児童対策地域協議会ということで、支援しないといけない家庭のお子さんとかというのがあるんですけども、そういうお子さんの中で、不登校の理由とか遅刻の理由とか生活が乱れている理由をひもといていくと、実は下のお子さんの面倒を見るために学校に行けていなかったとか、病気のお母さんの状態が気になって学校に行けていないとかということが、支援室のほうで状況をいろいろひもといていってやっと分かってきて、これはヤングケアラーじゃないかなというふうに分かってきているケースというのが結構あります。それは完全にヤングケアラーかどうかというのが、誰もなかなか判断はできないんですけども、区役所の子育て支援室としては、子どもが子どもらしい生活をできていない、学校とかクラブ活動に行くことが制限されているというのはヤングケアラーじゃないかなということで、今、そうではないかなという疑いで判断しているケースが、当区では10人ぐらいのお子さんがいらっしゃるかなとは思っております。ただ、それも明確ではないので、実際にはもっとたくさんのお子さんもいらっしゃるかもしれませんし、その10人ぐらいかなと思っているお子さんたちも、実はそうじゃない原因で不登校になっていたりとか、遅刻している原因かも分からないんですけども、ただ、私たちはとにかくその子たちが通常のほかのお子さんたちと同じように何も気にしないで学校に行けるという環境じゃないということで、ヤングケアラーではないかというふうに思っております。

それを、学校さんが一番見つけやすい場なのかなとは思いますが、ただ、学校さんも不登校ぎみであるということや区役所のほうに相談してこられたときに、ヤングケアラーという認識でももちろん相談されてくるわけではありませぬので、本当にいろんな周囲の状況とか家庭の状況とか、区役所が知っている情報もひもといていって、やっと、お母さんが病気がちだったのかとか、お薬をもらいに行くのにお子さんが、ひとり親家庭だからお母さんを病院に連れていくのに子どもさんが手助けしていたのかとかということが後から分かってくることなので、なかなかそれも学校さんにいろいろ相談していただいて初めて分かることが多いかなと思っております。

ですので、地域で身近にお子さんの様子を見ておられる方とかが、ちょっとやっぱりこの子、遅れがちに学校に行っているけど、しんどそうな顔をしているけど、何かあるのかなというのに気づいていただけたら、区役所の子育て支援室にちょっと気になる子がいるけれどもということでご相談いただけたら、区役所のほうで学校の情報とかも聞きながらひもといていけたらなと思っておりますので、またご協力のほう、どうかよろしく願いいたします。

以上です。

【大畑区長】

詳細がそうなんです。それで、谷委員がおっしゃった自分で話せないという、これがもうヤングケアラーの一番の難題でして、自分から、僕はヤングケアラーですよと言える小学生、中学生はまずいないんですよ。実は、弟や妹の世話をするのは当たり前だと思っていた。ヤングケアラーに自分が該当するということを、まさかみたいに思う子が圧倒的に多いので、大阪市としては教育委員会のほうで、各学校に昨年の認識とはがらっと変えてもらって、ヤングケアラーという認識を持って学級運営に当たってくださいとお伝えしています。ちょっとでも疑わしい場合は、子どもたちの話をよく聞いてくださいというのを、今、大阪市から、教育委員会から各学校に通達をしているので、先生方はかなりそういう目で細かく子どもたちを見てくださっているのではないかなというふうに思っております。

すみません、以上です。

【江川議長】

議長の江川ですけど、ちょっとヤングケアラーという言葉がはやっているみたいになって、広まってはいるんですけど、定義は何なんですか。例えば、未成年の子が家庭の世話とかをするんだったら話はまだ続くんですけど、今いろんな議論をしているといっても、中学生なんかは3年なので、その間に卒業して、それを超えたら、中学校が終わって高校に行かずにそのまま学習の機会がなくなる子とも出てくると思うんですが、その定義というのは、何歳ぐらいとかはあるんですか。

【大畑区長】

ちょっと今手元に文書がないんですが、僕の記憶の範囲の中で、多少間違っていたら申し訳ないんですが、18歳未満で、家のお父さんやお母さんとかあるいは兄弟とかのいわゆるケアに追われて、その本人に困り事が出ているケースをヤングケアラーという定義で扱っております。ですので、18歳以上の方はもちろん対象外になりますし、18歳未満の方でも下の年齢というのは特に設けていないので、小さい子でも、小学校1年生が2歳の子を見ているというケースもありますので、我々の管轄で言えば中学校3年生までの間の子で、ちょっとそういう心配な子を今チェックをしていると。そういうふうにご理解いただければなというふうに思います。

【江川議長】

ほか何か意見ある方いらっしゃいますか。

彦坂委員、お願いします。

【彦坂委員】

大東の彦坂です。

先ほどパソコンの件で、1人1台のパソコンというお話が出ていたかと思うんですけども、このパソコンの使用というのは、学校の中での利用を前提にされているというわけではないんですか。うちの息子も中学校なんですけれども、家にパソコンを持って帰ってきていろいろやっている姿ってほとんど見なくて、できないのと言ったら、持って帰ったらあかんというような決まりになっているとかというようなこともちらっと言っていたりして。以前、コロナの第3波か4波ぐらいに、結構長期の休みがあったときとかでも、その期間オンライン授業を実施しますというような話があったんですけども、プリントを50枚ぐらい持って帰ってきて、それにオンライン授業と書いてあって、これオンラインじゃないやんというのがあったんですが、そのあたりどういうふうな使い方というのを想定しているのかなというのをちょっと確認させていただきたくて。お願いします。

【大畑区長】

これも大阪市全体の話なので私から回答させていただきますと、1人1台パソコンの使用は、正直、持ち帰りに関しては、現場の意見を聞くと本当様々です。要はこうなさいという通達をきつくしていないので、本当に持ち帰りを頻繁に、学校単位でもばらばらですし、あと学校の中でも先生や学年によって、かなりの頻度で持ち帰らせているケースと、そうでないケースというのがあります。ただ、今ちらっとおっしゃったいわゆるオンライン授業に対応するための環境を整えて、もしオンライン授業があれば当然そのパソコンを使ってオンラインで授業ができるようにはしておかなくてはいけない。これはもちろん定義としてあるので、第6波の持ち帰りのときは、恐らくまだ不十分な対応の学校さんがプリント50枚とか、そういう学校さんがあったのかもしれないですけど、それはやっぱり準備ができていなかった学校さんなのかなと。大分、今は日にちもたってきているので、もし今度休校のようなことが起きた場合は、そのときよりははるかにいい形でオンライン授業ができるかなと思います。ただ、一斉回線が今つながるようにはなりましたと市教委のICT担当は言っているんですけど、全員が一斉にまだ使った経験がないので、その辺はちょっとつないでみないと分からないというところはあるんですが、もし次回休校になった場合は、オンライン授業の対応はできつつあるというふうにご理解いただければと思います。

【彦坂委員】

このPCの使い方というのが各学校によってかなり格差が出ているんじゃないかなというのをすごく感じました。あと、それに付け加えて学習支援なんですけれども、この夏休みの間も中学生対象に、宿題が進んでいない子を学校に来てもらって支援するというのを、夏休み期間中3回か4回ぐらいやっている中学校もあれば、全く実施ゼロの学校もあるというので、すごく取り組み方に開きがあるのかなというのをちょっと感じています。

【江川議長】

ありがとうございます。

ほかに何か言い足りないことがある方いらっしゃいますか。何でもいいので。元に戻って、子ども食堂とか、子どもの居場所が全エリア、地活協エリアに広がったり、こんなんやったらできるんじゃないとか、そういうアイデアでもいいので、何かあったらお願いします。

鷹取委員、お願いします。

【鷹取委員】

子ども食堂という場所なんですけれども、私が見ても場所が分からないんです。お子さんなんかが見ても多分分からない、ホームページとかで見れば分かると思うんですけど。よくある公園の近くに皆さんが集まるようなところありますよね。区民の方たちが。

【伊藤副議長】

福祉会館。

【江川議長】

掲示板とか。

【鷹取委員】

そうですそうです。そういうところでできたら、地域密着型で、皆さん結構引退されている方も動けるし、やはり中でもスキルをたくさん持っておられる方もいらっしゃると思うんです。引退してもやっぱりそういう指導できる力がある方がたくさんいらっしゃると思いますので、そういう場所で活動されるといいなと時々思っていました。なので、現在の子ども食堂の場所以外でできるようにというのは、こういうお話しは何度かされているんですか。ちょっとすみません、分からないんですけど。

【清原課長】

多分、先ほどの子ども会の話もそうなんですけれども、子ども食堂という新しい取組をやろうと思われている方と、それから、従来から地域でいろんな活動をされている方の活動している層が多分少し違うんだろうと思うんです。そういう部分でいうと、使える資源ってまだまだ地域にあると思いますので、そこは、先ほどもいっしょにごはん会について場所がないみたいなことを困られているような例を聞けば、どこかと仲立をする役割、それはちょっと役所がやるべきなのか、あるいは役所と両輪になって動いている区社協、社会福祉協議会もありますので、そちらともお話をしながら、連携を取れるような体制を今後考えていきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

【江川議長】

ありがとうございます。

ほか何かありますか。

彦坂委員、お願いします。

【彦坂委員】

大東の彦坂です。

今の子ども食堂のお話で、行っても場所がちょっと分かりにくいというようなことだったんですけど、これ例えばこの事業に参加している食堂に貼るような統一のマークみたいなものはあるんですか。

【清原課長】

まず、連携を取っている地域もあるんですけども、多分都島区では各団体さんはそれぞれで動いていらっしゃるって連携はないんだと思います。それから、実は区役所も、さっき申し上げましたけれども、市社協のホームページで確認していて、市社協のホームページに登録している団体さんは把握しているんですけども、実はこれ登録せずに活動されている方がいらっしゃるかもしれないという把握状況でしかないんです。そういう意味で、統一のマークというのは今ないですから、もし連絡会みたいなものが立ち上がったら、何かうまいPRの工夫みたいなものをまたご提案いただくとか逆にさせてもらったりはできるかなと思います。

【彦坂委員】

ありがとうございます。

【鷹取委員】

すごく素朴な疑問で、そんなこと聞くのかと思われるかもしれませんが、子どもを一番分かっている小学校や中学校で、そういう活動ってできないんですか。やはり管轄が違うんですか。

【清原課長】

まず、学校ってもともとそういうことをする場所ですから、例えば体育館なんかを借りたりする活動があるわけですから、何かの工夫によってはやりようはあるのかなと思いますけれども、基本的には、ものすごくしょうもない話ですけど、鍵の開け閉めは誰が責任を持つのかみたいな話から組み立てていかなければいけないので、一定の工夫は要るのかなと思います。多分よその市町村が何かで朝ご飯を提供したりしている例はあつたりしますので、全然できないわけではないと思うんですけども、ちょっと今、すみません、区役所も含めて力量が足りていないというところで、できていないんだろうというふうに思います。ご提案としてはあり得るかなと思います。

【江川議長】

ありがとうございます。

僕が今もう6年、子ども食堂を2か所運営しているので、それをちょっと言わせてもらったら、多分淀川区か何かで、朝、多分町会も絡んでいると思うんですけど、朝ご飯を出しているところがあつたりとか、今やっているかはわからないコロナ前の話ですけど、あつたりはあるので、やっぱり地域の

力でやらないとできないのはできないです。担い手が今どんどん高齢化しているので、どの年代がやるかとなったらまた難しいのは難しいんですけど、私もそのように、地域ごとに学校と地活協が連携してやったら、そこで顔見知りになって、高齢者と子どもたちとか若い世代が、今オートロックでつながっていないとか、子ども会に入っていないとかあるけど、そこでつながったらまた防災にもつながっていくかなと思って、それが一番いいかなと思うんです。すみません、ちょっと意見しました。

ほか何か意見ある方いらっしゃいますか。

谷委員、お願いします。

【谷委員】

谷です。

子どものこととちょっと違うかもしれないんですけども、最近地域の行事もコロナで全くなくなってきたので、地域の方と子どもたちが触れ合うことが全くないんです。学校のほうも「貸してください」と言っても、なるべく使わないでほしいというお話をいただくので、こちらとしては、地域的にはやっぱり何年もしていないので、子どもたちに楽しい思い出をつくってあげたいと思って行事を始めようかなと思っていても、学校側がちょっと今はと拒否されたりとか、使わないでほしいと言われてしまったりとか。ましてやPTAもどんどん毎年保護者の方も変わってきますよね。そうすると、PTA役員さんが引継ぎされていないので、行事をしていなかったから、それをまたしますと言っても、どうしていいか分からないからやっぱりやめますと言って、どんどんやめていってなくなっていく行事が多い。今そういうふうな状態になっていて、行事をなくしてしまったら、全く子どもと大人たちの地域の触れ合いの場がなくなってしまうという不安があるんですけども、今神社のほうはすごくお祭りをしようと言って、ちょっと頑張っていたら、秋、ちょっと涼しくなってくるので、子どもみこしと枕太鼓のだんじりを今回はするんですけども、それでもやっぱりおみこしを担ぐのに、コロナ感染したらどこが責任を取るんだとか、そういうことばかりを言われてしまうと、誰が責任だと責任の所在の追及をされてしまって、子どもたちにこういう楽しみがあるんだよというのをしてあげたいのにできないというのが最近はあり過ぎて。今回は神社のほうのお祭りは決行するんですが、そうやって言われた場合に、私は各自で気をつけなくちゃいけないけれども、やっぱりある程度町会でも感染対策をしながらやっていきますのでと押し通して。今回は各町会ごとにですけど、子どもの感染対策、あと保護者の方にも協力を受けてやっていくというような形を取っているんですけども、他地域さんではそういった団体の子どもと一緒に交ざる行事でコロナ感染のための対策とかはどうされているのかなというのが気になるのと、そういう責任を問われて尻込みしてやめてしまうという結果とかになってきているのかなというのもちょっとお伺いしたいなと思います。

【江川議長】

そしたら伊藤さん。ひがみやまつりをやっていたのでどうですか。あと、来週の区民まつりの話で、その感染対策をどういう形でやるのかもちょっと事務局のほうからも後でお願いします。

【伊藤副議長】

東都島では8月20日にふれあいフェスティバルを決行しました。雨かもしれないということで、それは夜のお祭りでいつもなら外でするんですけど、雨になるかもしれないということで校内を文化祭のように使ったんですけど、すごかったんです。やっぱり3年ぶりで、すごく待っていていたと思うんです。それがまず連合町会、うちやったら地活の会長も同じ会長なんですけど、そちらに話を持って行って、やりますということになったら、責任はやっぱり会長になってしまうので、一応承諾をもらいに行きました。別に僕が責任取るとおっしゃったわけじゃないですけど、そうなるじゃないですか。でも、一番はかったのは区民まつりがあるかどうかなんです。淀川さんって区民まつりに町会出ないですか。出ますでしょう。だから、うちも東都島の連合町会はテントを借りてやるというふうに聞いたので、それをされるのであればするかなと、ちょっと思ったんですよね。それもやっぱり密になるじゃないですか。区民まつりの開催で判断して、やりますというふうにしてやりました。11月5日にまた、それはお昼なんですけど、小学校の第2グラウンドでひがみやまつりという一番大きなお祭りをするんですけど。それももうこんな状態やったらもしかしたらやめるかなと思ったので、この間会議したんですけど、すごく町会は乗り気で、うちはどうどん屋するとかおでんするとか、もう決めているところもあったぐらいで。区民まつりが一番注目していたのか、町会側も、もうええやろうみたいなのがちょっとあったんじゃないですかね。4回接種したほうが感染している人いたりもするので。そういう人が多かったんですけど。ふれあいフェスティバルに、実際あれだけ密だったんですね。すごかったんです。でも、担当役員の中でかかった人は1人だけだったんです。その方はそこでかかったかどうかは、いまだにちょっと分かりません。20日にあって26日から学校が始まりますので、すごく心配していたんですけど、週明けに私学校で仕事しているので行ったら、そんなにお休みがいなかったんです。幼稚園児のこととかはちょっと分かりませんが、感染対策は、お祭りでしょうとしていて消毒ぐらいは置いていますけど、やっぱり個々にすごく気をつけていたんじゃないかなと思います。頑張ってやってください。

【江川議長】

ほか、地域で祭りをされたところとかありますか。特になければ区民まつりのことを聞こうと思うんですけど。

それでは、事務局お願いします。

【鹿倉課長代理】

急遽すみません。まちづくり推進課課長代理の鹿倉と申します。よろしく願いいたします。

区民まつりの感染防止対策についてご説明させていただきます。

区民まつりにつきましては、まず感染防止安全計画というものを主催者として作成して、2週間前までにということで大阪府のほうに提出させていただいています。具体的にどういふことを対策を取っているかといいますと、一つは飛沫の抑制ということで、マスクの着用を呼びかけるということ、警備員のほうからそれぞれ声をかけて提供できるマスクのほうを準備しておることと、あとプログラムやポスターのほうに記載をしております。また、会場内でもマスクの着用について掲示をさせていただいたり、会場アナウンスでの定期的に呼びかけというところを一つする予定です。2つ目に、手指消毒の徹底ということで、手洗い場のほうを前回までよりも約2倍ぐらいの数に増設するということと、会場内の各エリアに消毒薬の設置を予定しております。あと、出店される方にも消毒のほうをしていただくということをお願いしております。あと、換気につきましては屋外なので特に問題ないかなと思っております。あと、密集回避ということで、プログラムとかもポスターのほうに記載をして、なるべく密集しないようにということに記載するとともに、こちらについても会場アナウンスで定期的に呼びかけるということです。あと、飲食の制限につきましては、これまで屋台のほう、商売で来られるシンノウ会さんが来られていたんですけれども、そちらのほうはお断りして、各地域の方で出される飲食のブースのみということになるので、飲食の屋台の数は減っているということと、飲食中以外はマスクするようにということをお願いしております。あと、出演者とか出店者については健康チェックリストを提出して、調子の悪い方は出店を予定されている方でも無理をなさらずにお休みいただくということをお願いするとともに、参加者についてはCOCOAとか大阪コロナ追跡システムの活用ということで登録をお願いするということと、本部にありますプログラムの配布場所のほうで体温を測定する検温というようなところもさせていただく予定にしております。

これが区民まつりで対策予定しているものになります。以上です。

【江川議長】

ありがとうございます。

そしたら、ほかに何かありますか。

伊藤委員、お願いします。

【伊藤副議長】

区民まつりでお聞きしたいんですけど、時間を11時からだったのを12時からにされたじゃないですか。それと、よそから来る露店をなくしたらもっと密にならないですか。3年ぶりですか、楽しみにしていたら、うちのお祭りじゃないですけど、すごく来たんです。それで、時間は短いし、食べるものとかが減ったらすごく並ぶんじゃないかなと反対に今思うんですけど、もうそれはしょうがない？

【鹿倉課長代理】

まちづくり推進課長代理の鹿倉です。

そういう議論、感染対策する場合、伊藤副議長がおっしゃるように、時間を短くするとそこに集中するとか、そういうようなお話も実行委員会の中ではあったんですけど、まずシンノウ会さんをお断りするということになりますので、会場のスペース、広さは当然同じスペースを確保していますので、その屋台の分だけ空いているスペースが広がるということになるので、全体的に密は避けられるのかなというふうに思っております。時間についても、1時間ずれるということになるんですけども、その時間で密集というところまでは想定していないところでございます。

【江川議長】

ありがとうございます。

そしたら、あと何かございますか。よろしいですか。

そしたらちょっと議長から最後に、来月の会議もあるのでまとめさせてもらおうと、ほうかご学習ひろばはいい活動で続けてほしいですけど、これも中学生にも広げてほしいというのはまた来年以降考えてほしいです。子どもの居場所づくりに関しては、7か所のうち2か所は私が運営しているので、私が連絡会をつくりますので、区役所さんは全部のところの写真を撮って、ホームページ、フェイスブックに上げて、都島区はこんな活動しているよ、こういう連絡会があるよというので、今言った都島区のキャラクターのとっきーを使ってでも、子どもを応援する都島区の連絡会、子どもの居場所づくりみたいなステッカーをつくって、その認定をつくってくれたら、また広まっていったりすると思うので、そういうのをやってほしいと思います。あとは、区の場所にないところ、今、居場所がないところとかあるんですけど、ヤングケアラーとか中学生の不登校とかは、私が6年前から子ども食堂をやる前から、初めはそっちを本当にやりたかったので、そういうので何かやるとか、子ども食堂でも、小学生とか小さい子でもいいので、またこの区内でやりたい人がいるというんだったら、連絡をくれたらお手伝いもするので、また皆さん何かあればご連絡ください。

今日は予定していた議題が円滑に進みましたので、皆さんありがとうございました。

あとは事務局のほうにお返しします。

【吉田課長代理】

江川議長、ありがとうございました。

本日は、議長、副議長をはじめ各委員の皆様方におかれましては、活発なご議論を賜りまして誠にありがとうございました。

最後に、区長の大畑から一言ご挨拶させていただきます。

【大畑区長】

本日は本当に遅くまでたくさんのご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

最後に私がまとめて意見を言わないといけないんですが、本当に議長が最後言っていただいたので、本当にありがたく思っています。この子どもの居場所づくりですね。各委員から出ているように、やっぱり見づらかったり場所が分からなかったりということ。ただ、社協さんのホームページでしか情報共有ができていなくて、各子ども食堂さんとか居場所さん、それぞれいわゆる一般社団法人さんであったりNPO法人さんであったり独自にやられているので、なかなか区役所が介入して横の連携というのも難しいなど。でも、今日ご意見が出たので、横の連携をこれから頑張りますと言おうとしたところに、江川議長がもう連絡会をつくってくださるって、本当に神の一声だなというふうに改めて感じました。ですので、議長にそう言っていただいているので、本当にこれから横の連携をして、区役所も本当に足を運んで。僕も実はまだ全然足が運べていないんです。なので、足を運びながら、実態も把握しながら、また各運営の悩みも聞きながら、行政としてできることをやっていながら、この居場所づくりをよりよいものにしていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

本日はどうもありがとうございました。

【吉田課長代理】

それでは、これをもちまして、令和4年度第1回教育・子育て部会を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。